



日中は、暑い日が続いていますが、陽が落ちるのも少しずつ早くなり、秋の訪れを感じるようになりました。朝晩の気温差などで、体調を崩しやすい時期です。体調管理に気をつけて過ごせると良いですね。



7・8月は猛暑日が続き、40度を超える日もありました。9月もまだまだ暑い日が続きます。子どもの熱中症について再度確認しましょう。



こどもの熱中症について

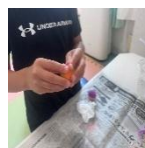
東海中央病院小児科 上野たまき

こどもは汗で体温を調整したり、おしっこの量を腎臓でコントロールする能力が未熟な上に、体表面積が大きいので、外界の温度の影響を受けやすく、熱中症になりやすいです。

また、多少しんどくても遊びに夢中だと遊び続けてしまうため、大人が気づいたときには、すでに病院受診が必要なほどの熱中症になってしまっているときもあります。

元気に遊んでいるように見えるときにもこまめに休憩をとって、経口補水液やイオン水を飲むように声かけをしましょう。

体温計は体表面の温度の計測になるので、高体温ではないからと安心せず、大量の汗や頭痛、嘔吐、げんきがなくなってきたときには、熱中症を疑って対応しましょう。



ここのなつは ..

手足口病が大流行で、こあらも0歳～1歳3ヶ月ぐらいのお友達がたくさん来てくれました。

ほぼ1対1の保育で、一日中保育士に抱っこという子もいましたが、機嫌のよい時は、他のお友達と同じお部屋で遊んだり、おやつを食べたりできる子もいて、毎日楽しく過ごすことが出来ました。

8月近くになると、小学生のお友達も来てくれて、体調に合わせて好きなあそびをたのしみました。ビーズアートをしたり、スーパーボールを作ったり、絵を描くことが好きなお友だちは、B紙を半分にしてお絵描きをして絵の具で色を付けたりして楽しみました。

お預かりの年齢が、0歳～小学校6年生と幅広いので毎日登園してきてくれるお友達の体調、年齢に合わせた保育ができるよう、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら安心して楽しく過ごせるよう心掛けています。